

吉野谷地区白山市ミライ会議

1. 会議概要

項目	内容
開催日時	令和8年5月20日(水)19:00～
開催場所	吉野谷コミュニティセンター
参加者	7人(市長、吉野谷コミュニティ、夏まつり実行委員会、地区防災を考える会、白嶺小中学校育友会、吉野谷青年団)
選択トピック	R7のミライ会議で出た課題から 1 夏祭りの開催と休眠施設活用 2 吉野保育所の活用と地域防災 3 吉野保育所の再開と地域の子ども環境 4 吉野保育所の新たな活用方法



2. 主な議題と意見

(1) 夏祭りの開催と休眠施設活用



① 現状

- 吉野谷青年団と地域住民で組織する夏祭り実行委員会が、数年前から地域の盛り上げを目的に夏祭りを開催している
- これまで吉野工芸の里を会場として活用していたが、ジオパークの拠点として工事中となったため、代替会場が必要な状況

② 課題・提案

- 吉野保育所が現在休園中ため、夏祭りの会場や他の団体さんの貸出施設として活用できないか

③ 市の主な方向性・回答・対応

- 保育所は単独の貸館施設ではなく、児童館やコミュニティセンター、サービスセンターと一体となった事業についての利用が前提
 - 児童館や放課後児童クラブの運営に支障にならない範囲であれば問題ない
 - 臨時的な地域内交流であれば、関係機関と打ち合わせしながら対応可能
 - コミュニティセンター化に伴い、吉野谷コミュニティにとって祭りは非常に重要であり、児童館や放課後児童クラブと連携しながら活用方法を考えていきたい
-

(2) 保育所の活用と地域防災



① 現状

- ・ 吉野保育所は現在休園状態で、児童館と放課後児童クラブが施設の一部を利用している
- ・ 白山ろく体育館が二次避難施設として指定されている

② 課題・提案

- ・ 避難所での被災者の心理的負担が大きく、特に子どもが泣いたり騒いだりする際のプライベート空間が必要
- ・ 保育所を二次避難所の補助施設のような形で活用できないか

③ 市の主な方向性・回答・対応

- ・ 災害時の避難施設は入り口を一本化し、食料品や備蓄品の一元管理が必要
 - ・ 複数の避難施設を初めから設置することは、職員配置や運営上の課題があるため難しい
 - ・ 保育所を予備避難施設として位置づけ、状況に応じて利用することを前提として、今後の活用方法を考えていきたい
-

(3) 保育所の再開と地域の子ども環境



① 現状

- 吉野保育所の入所児童が3人に減少したため、集団保育が成り立たない状況
- 保護者と相談の上、別の保育園への入園を勧め、令和7年度から休園となった
- 白嶺小中学校の小学1年生が0人となる状況が発生

② 課題・提案

- 保育所がないことで、地域の子どもが他地区の保育園に通園し、別の小学校に進学する流れが生じている
- 白嶺小中学校の入学生がいなくなると、学校そのものの存続が危ぶまれる
- 活気のある保育所が吉野谷地区にないため、地域全体の活力が低下している
- 保育所の再開を第一希望とするが、難しい場合は、ジオパークを活かした「ジオ保育」として、自然体験ができる保育活動を実施する施設への転換を提案

③ 市の主な方向性・回答・対応

- 第一優先は保育所としての再開
 - 白山市の教育は、ジオ育・食育・読育という「はくさん3育」が特色であり、その中でジオ育は白山市ならではの学びである。保育所・こども園についても自然体験を含め、そういった視点は重要であると考えており、考えていきたい
-

(4) 吉野保育所の新たな活用方法



① 現状

- 吉野保育所は特殊な建築構造を持つユニークな施設
- 現在、保育室 4～5 室が手つかずの状態で保管されている
- 創作活動や芸術活動を長く安く借りられる場所が求められている

② 課題・提案

- 廃園となった場合、施設をどのように活用するか
- 特殊な建築構造を活かして、音楽や演劇の練習場所、ミニ公演の舞台として活用できないか
- 金沢市の「市民芸術村」のような、白山市版の芸術・文化施設として、創作活動や芸術活動を長く安く借りられる場所としての活用を提案
- 吉野工芸の里とあわせて、辺り一帯を芸術・文化・ジオ学習ゾーンとして整備し、中学生の部活動地域展開の拠点としても活用できないか

③ 市の主な方向性・回答・対応

- 大学生をはじめ、様々な人たちがこの地域に向いてきている状況を踏まえ、こうした発想も将来的に考えていきたい
-

3. まとめ

吉野谷地区は、「こども会議」を開催し、今後の担い手となっていく子どもたちからの提案を実現し、また、自分たちに合った防災プランや安全対策構築に取り組むなど、活動の幅や住民参画の間口を広げている地区です。

今回のミライ会議では、休眠施設を活用した夏祭りの開催、吉野保育所を活用した地域防災やその他の新たな利活用、地域の児童数減少に伴う保育所・学校の存続といった課題について、具体的な話し合いを行いました。

市としては、現在、休園中である吉野保育所の再開に向けた解決策を模索しながら、吉野谷コミュニティや関係機関と連携を図り、地域の実情に合わせた保育所の活用方法について提案していくことを確認しました。

